

## 令和3年度米子工業高等専門学校評議員会議事要旨

1. 日 時 令和4年3月4日（金） 13：30～15：30

2. 場 所 米子工業高等専門学校 大会議室

### 3. 出席者 【委員】

河 田 康 志（議長）（鳥取大学理事・副学長（研究担当、IT担当））

酒 井 信 彦（鳥取県教育委員会事務局高等学校課長）

山 本 淳 一（鳥取県中学校長会会長・境港市立第二中学校長）

岡 村 整 裕（公益財団法人鳥取県産業振興機構理事長）

安養寺 博（鳥取県子育て・人財局総合教育推進課長）

守 谷 光 広（米子工業高等専門学校振興協力会会長）

角 正 樹（株式会社NTTデータユニバーシティ取締役・研修事業部長）

松 田 ゆかり（米子工業高等専門学校後援会副会長）

大 谷 文 雄（米子工業高等専門学校同窓会会長）

### 【米子工業高等専門学校】

寺 西 恒 宣（校長）

新 田 陽 一（副校長・校長補佐（教務））

中 山 繁 生（校長補佐（学生））

青 砥 正 彦（校長補佐（寮務））

高 増 佳 子（校長補佐（総務））

山 口 顕 司（校長補佐（研究・地域連携））

藤 井 雄 三（校長補佐（専攻科））

小 松 圭 二（事務部長）

吉 田 雅 人（総務課長）

坂 野 豊 和（学生課長）

石 倉 規 雄（校長補佐（総務）補）

【説明者】

新 田 陽 一（副校長・校長補佐（教務））

※総合工学科1年生の状況について

高 増 佳 子（校長補佐（総務））

※高等専門学校機関別認証評価について

※令和3年度 年度計画及び自己点検・評価報告について

4. 欠席者 大 津 宏 康（松江工業高等専門学校長）

八 幡 泰 治（米子市総合政策部長）

土 川 由 美（米子工業高等専門学校後援会会長）

5. 議 事

① 高等専門学校機関別認証評価について

② 総合工学科1年生の状況について

③ 令和3年度 年度計画及び自己点検・評価報告について

④ その他

6. 校長挨拶

開会にあたり寺西校長より、学科改組後初の1年生が無事に課程を終えようとしており、おかげ様で志願者数の大幅増、特に女子学生が4割を超えるという大きな変化があった旨の報告と、依然続くコロナ禍において、分散登校やリモート対応等工夫をしながら授業を行っているが、まだ課題を多く抱えているので評議員の皆様より貴重なご意見をいただきたい旨の依頼をもって開会の挨拶とした。

7. 出席者自己紹介及び配布資料確認

8. 報告事項

小松事務部長より、令和3年度に受審した機関別認証評価に対応するため、評議員会規則や自己点検及び評価等に関連する規則の改正を行った概要と経緯について報告があった。

## 9. 議長選出

総務課長（司会）から、評議員会の会長を委員の互選によって選出する依頼があり、委員から河田鳥取大学理事・副学長（研究担当、IT担当）が推薦され、異議なしで河田鳥取大学理事・副学長（研究担当、IT担当）を会長に選出した。

## 10. 議事

### ①高等専門学校機関別認証評価について

高等専門学校機関別認証評価について、資料に基づき高増校長補佐（総務）から概要の説明があった。

### 《質疑応答・意見交換》

◆鳥取大学も今年度認証評価を受けた。米子高専では評価されている点が多くあり、大変素晴らしい。一方で、改善を要する点では、ディプロマポリシーに関する点や教員の評価とインセンティブに関する点の指摘を受けている。事前に委員からこれらに関して、なかなか難しいところがあるが、しっかり対応していかなくてはならないというコメントをいただいている。各委員からご意見やご質問をいただきたい。

◆学校側と認証機関側との間で認識の誤差が生じている。次回の認証評価までの6年間で誤差を埋め、質保証が保たれるような取り組みをしてほしい。

→（寺西校長）高専機構全体として教育の達成目標とその手段について、ポートフォリオの推進やモデル・コア・カリキュラムを設定している。本校においてもシラバスやルーブリック等を徹底している。しかしながら、内部から見て良いと評価していることも、外部から見た場合には評価が違ってくるということを改めて実感した。さらに改善していきたいと思う。

◆教員の能力向上や活動実績に関する評価を研究費配分に反映する取り組みが不十分とあるが、果たして研究費配分が妥当なのか。他の方法を考えているか？

→（寺西校長）教職員に対して何を以て評価するのか、というのは非常に難しいところ。学内のそれぞれの所掌の方から評価してもらい、勤勉手当や昇給の他に教育研究費配分に反映させたりということを考えているが、評議員の皆様より逆にお知恵を拝借したい。

- ◆人の評価というのは原因系（プロセス）の評価と結果系の評価と2種類ある。学生で例えると何十時間勉強したからといって成績が取れるわけではないが、結果ばかりに焦点を当て、プロセスを評価しないというのは不適切。原因系、結果系の2軸についてどちらに重きを置くかは職種や事業の内容で異なるので、教職員の評価についても複数軸を持ち、バランスを取っていくことが必要だと思う。

## ②総合工学科1年生の状況について

総合工学科1年生の状況について、資料に基づき新田校長補佐（教務）から概要の説明があった。

### 《質疑応答・意見交換》

各委員から以下の質問・意見があった。

- ◆志願者数の大幅増について、実際に学生に米子高専を選んだ理由を調査（モニタリング）した方がよい。
  - （新田校長補佐）入学生にアンケートを取ったところ、専門的な分野が学べるからという回答が従来から多い。近年“高専”という言葉を目にする機会が増えたことで、全国的に高専が注目を浴びているということも背景にあると思う。それと、今回総合工学科が新設されたので、新しいものへの期待という効果もあったと思う。
- ◆漠然と理科系に進みたいと考えているが、不安を抱えている中学生に向けて、高専を体験する機会を与えることでPRにつながると思う。
  - （寺西校長）ご指摘に感謝する。入学前に学校見学会を行ってはいるが、機械や電気電子といった違いがわかりづらいようだ。また、これまでは入学してからミスマッチに気づくことがあった。この度のアンケートで、入学して1年間総合工学科で学習してから自分に合ったコースを選べるというのはありがたいという声も聞いた。引き続き、慎重にモニタリングを続けていく必要があると考えている。
- ◆コース決めは成績上位者から志望順に決まっていくと思うが、自身のまったく得意分野でないコースになってしまった際、辞めてしまう学生が出てくるのではないか。そうい

った際の配慮はあるのか。

→（新田校長補佐）設備や対応できる教員数などを考慮し、各コースで上限人数を定めざるを得ない。また、様々な専門分野の学生を満遍なく社会へ送り出すというのも本校の使命のひとつと考えている。コースを成績順で決めるというのは、客観的に説明できる理由が必要で、総合工学科ができる前に各中学校とも意見交換を行い、現在の方式を取っている。

一方で、最終手段として転コースという制度もあることをご承知おきいただきたい。

◆どのコースに人気があって、成績順でコースが決まるのでどの程度の成績を取る必要があるといった情報も入学前に知れるとミスマッチは減ると思う。

→（新田校長補佐）ご提案に感謝する。入試の受付期間中に志願者数はホームページで公開しているが、どのコースを考えて志願しているかというところはヒアリングしていなかったもので、確かに受験生には有益な情報になる。中学校とも意見交換をする必要があるので、今後の課題としたい。

◆高専を志望する中学生は、総合工学科に入学後のコース決めについて、自分の志望するコースに入れなかった時の不安感というより、いろいろな可能性を見つけるチャンスが増えたというポジティブな捉え方をしている印象がある。総合工学科での1年間で様々な興味関心を引き出せる期間となり得ると考えている。

→（寺西校長）まさにそのように中学校と高専とが連携し、子どもたちを育てていきたい。複眼的視点から見るということは重要で、狭い視野ではなく多方面から物事を考え、周りと連携していける人材に育てていくのが本校の目標でもある。

◆これからどんどん社会の情勢は変化していくであろうから、今後人気の出る分野は変わってくる可能性がある。そういった際に柔軟にコースの定員を増やしたり、反対に減らしたりができればよいと考える。

### ③令和3年度 年度計画及び自己点検・評価報告について

令和3年度 年度計画及び自己点検・評価報告について、資料に基づき高増校長補佐（総務）から概要の説明があった。

《質疑応答・意見交換》

各委員から以下の質問・意見があった。

◆コロナ禍においても国際交流のプログラムに応募が続いているが、学生に向けてどのような動機付けを行っているか？

→（新田校長補佐）オンラインで海外の大学と英語キャンプを行ったり、ネイティブの英語科の非常勤講師に、放課後にイングリッシュカフェという気軽に英語を楽しめるような事業を行ったりしている。そういったもので意識づけを進めている。

→（青砥校長補佐）学生には後援会の補助を受けながらオンライン英会話を希望者に実施している。こういった取り組みは次年度以降も続けていく予定。

◆3月の会議資料に11月までのデータしか載っていないのは妥当でないので、データの更新をお願いしたい。

各大学や高専が実施するFD・SD研修に高等教育機関が参加できるようになれば、様々なテーマの研修を受けることができ資質向上につながるので、検討いただきたい。

また、県が進める学生の県内定着・就職について、県内企業との交流の機会を増やしていただきたい。県の「STOP若者流出！プロジェクト」事業を進めているが、参加者が鳥取大学の学生のみとなっているのが現状なので、令和4年度からは高等教育機関、商工団体も含め、米子高専とも連携して学生へアプローチしていく方法を考えていきたい。

→（寺西校長）古いデータを提供したことにお詫びする。コロナ禍においても地域の子どもたちを育てて地域発展に貢献するという目的は、高等教育機関も高専も同様なので、連携を密にしていることに感謝する。若者の県外流出についても連携して取り組んでいきたいのでぜひご指導いただきたい。米子高専としてもキャリア教育に力を入れており、PBLで地域を学ぶような工夫を取っている。

◆コロナ禍においてオンライン対応の授業等を行っていることと思うが、やはり対面で現地に赴いて学べる効果も大いにある。令和4年度はその点についてどのように計画しているか。

→（寺西校長）コロナ禍においても学びを止めずに学生たちが安心して学べる環境を提供することに精一杯だった。令和4年度はこれまでに得た経験を活かし“今まで通り”と

ならないように発展をしていかなければならない。コミュニケーションを大切に、オンラインばかりにならないようステップアップできるように考えている。

#### ④その他

出席委員から一人ずつ意見、質問等を募った。

- ◆学科再編の際に掲げた、地域に根づいた分野横断型教育というテーマは非常に大切だと思う。PBLで地域を学ぶ工夫を行うことで、県内に残ってくれる学生も増えていくのでは。学生のみならず教職員向けの研修も行っているということで、そのノウハウを教えてもらいながら県下で協力し合って地域の子どもたちを育てていきたい。
- ◆今日の様々な立場の方からの意見を聞けて、今後の教育へのヒントをもらえたと思った。コロナ禍において学びの多様化、入学試験の在り方など、予測不可能な時代に向けて、今、論議を始めるときが来ているのかもしれないと思っている。
- ◆非常によくできたコース組みで、学科改組への苦労が伝わった。地元企業、産業と学校とのつながりの中で新たな展開が生まれるとよい。新しい情報発信を米子高専から行ってほしい。
- ◆鳥取環境大学では、認証評価に向けて体制を整備している現状があり（認証評価がゴールになっている）、これを次回までうまく機能させ続けられるかどうか課題となっている。  
また、国際交流についてはオンライン交流を活発に行っており、今後もオンラインをうまく活用することで学生の学びの機会が保証されるのではないか。
- ◆（発言委員の）事業所においても様々な場面でリモート対応を行っており、リモートに関する細かなノウハウがあるので、振興協力会として力になれることがあれば相談いただきたい。
- ◆コロナ禍が続き、オンラインで行える幅も増えてきたところで、受ける側（学生）もオ

ンラインに慣れてきて、求めるレベルが上がってきているのと同時に、オンラインに対するストレスも増えてきている。これまでどおりの対応だけでなく、様々な工夫や配慮が必要となってきたと思う。

◆オンライン対応について、家庭によって環境の差があったように思う。また、親元を離れて通学している学生もいるので、コロナ鬱などへのフォローも必要かと思う。

◆同窓会の活動も現在オンラインに限定されている。同窓会OBの参加が少ないので協力をお願いしたい。

◆（各委員の意見についてまとめた後）オンライン対応について、学生には各自でスマートフォンなどを用意させるのか、学校から指定するものを買わせるのか、学校から支給するのかどうか？

また、出張を含め、学生が学外に出て活動する場面が減ったので、予算に余裕が生まれているのではないか。その余剰部分はどのように活用するのか？

→（新田校長補佐）総合工学科になってから、1年生入学時に個人のパソコンを購入してもらうようにしている。諸事情により準備できない学生については、学校より貸与している。

→（寺西校長）学生に貸与するパソコンは250台用意がある。パソコンのスペックは状況に合わせて変更が必要になる場面が出てくると思うので、業者に照会・相談しながら進めている。

余剰金について、例えば部活動は後援会より補助が出ていたが、コロナ禍で補助額が減額となったため余剰金は多くはない。教員の出張等も減ったが、この余剰金は設備投資に充てたり、教員へバックしたりしていた。

## 11. 校長挨拶

閉会にあたり、各委員からのあたたかいご指摘に感謝し、今後関係各所との連携を強化しながら地域に根差した教育を行っていきたい旨校長の挨拶とし、閉会となった。